大戸川流域住民及び大戸川流域・下流域首長が国土交通大臣に大戸川ダム建設の必要性を訴えました。

(1)日　　時　平成 20 年 11 月 21 日(金)

(2)要　望　先　国土交通省

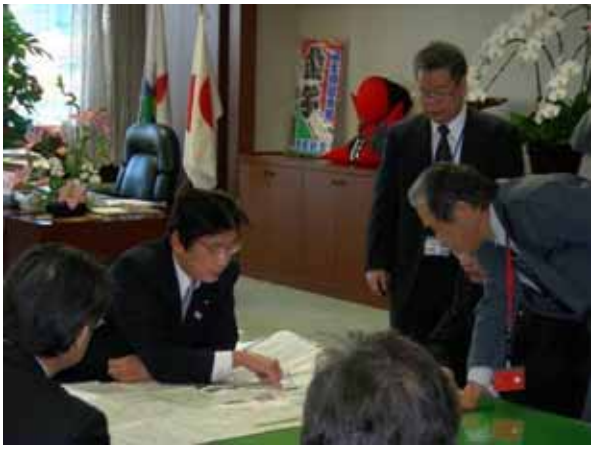
(3)要 望 面 談

10:55～11:25　金子恭之国土交通副大臣(副大臣室)
12:05～12:35　金子一義国土交通大臣(大臣室)
13:00～13:15　甲村謙友河川局長
13:30～13:45　竹歳誠国土交通審議官
13:45～13:50　春田謙事務次官
13:50～13:55　中尾成邦大臣官房技術総括審議官
大臣、副大臣、政務官、河川局関係課長及び大臣官房幹部職員へ要望書を提出

(4)要　望　者　20 人(同行者含)

・大戸川流域
大戸川ダム対策協議会　大鳥居地域開発協議会　牧町地域開発対策委員会
大戸川河川開発促進協議会(会長 大津市長(本人) 副会長 甲賀市長(本人) 監事 栗東市長(代理 技監))
・下流域(京都府)
京都府宇治市長(代理 副市長)及び久御山町長(代理 事業建設部長)

(5)要望の状況



金子大臣に訴える流域住民

大戸川流域米どころの「日本晴」

(6)参加者のコメント

南部正敏会長(大戸川ダム対策協議会)

10 月 29 日の大戸川ダム建設促進決起大会には、僅か 2 日の呼びかけで 120 名も集まり、議論をしあった。その議事録、決議をお渡しし、要望書を提出する。この間、この決議を持って、滋賀県知事、京都府知事、大阪府知事に要望を重ねてきた。知事にも訴えてきたが、ダム反対のように思われる。私は、昭和 57 年の洪水での大変な被害を体験した。(写真)国におかれては、私たちの安心、安全のため下流のためにダム建設を早期にお願いしたい。

正田忠一副会長(牧町地域開発対策委員会)

(地元「日本晴」のお米を提示)

汗と努力の結晶としてのこの「日本晴」を見てほしい。この美しい米のためにも環境も守り、地域の美しさを守って生きてきた。こうして守られた美しい水源とそれを守る努力が、下流の方の治水を守り、大切な水となっている。このことが、真に環境を理解することと思う。こうした人生の重みを理解し、ダム建設を願いたい。上田上の郷歌を説明（上記の大切さの歌）

小林茂宜会長(大鳥居地域開発協議会)

集団移転をした本人。

知事や知事を支援され、環境のこと等を言う方々は、地元の問題として実際の自然環境の怖さ、あの身に迫る洪水の脅威を知らない。真にその怖さを体験しない方が環境を真に理解されているとは思えない。自分たちは、あの洪水の脅威をよく分かっているので、ダムの必要性を理解し、地域の分裂など、人に言えない多くの苦しみを伴い、1200 年の集落の歴史を閉じる集団移転をした。3 年前まで知事先頭にダムの必要性を訴えてきた。それなのに、知事が代れば、一言の相談もなしに「ダムは、いらない」と明言する。私たちの人生はなんだったのかと言いたい。地域住民の納得のいく説明もしないで独断で決めたことを一方的に発言されることは知事の権力を利用した「責任の取れない」ものとしか言いようがない。そして、数の論理で押し通す。大戸川流域の住民と比較すると、大戸川流域でない住民の数が多いが、多くの方の知らない流域住民の苦難があってこそ京都や、大阪の治水が守られている。こうした事実や真の環境の怖さを知らない方々を味方につけて数の論理で押し切られる。真の住民の安心、安全を守れない無責任とおもう。

大津市長(大戸川河川開発促進協議会)

地方の問題を地方で決めるというが、知事は、どう理解されておられるのか疑問に思う。

この方々は、本当によく分かっておられる。市もよく分かっている。知事は、そこに住んでおられない。住んでいないのに、地元と違うことをおっしゃる。地域の方の声を聞いてほしい。

河川法に基づき、一番地元に近い、ダムを設置される市長と住民の意見を大切にしてほしい。

甲賀市長(大戸川河川開発促進協議会)

甲賀市も黄瀬の住民に移転を頂いた。市町長の大多数が賛成し、お願いしていることをどのように考えておられるのか疑問である。

宇治市副市長

大戸川ダムは、下流にとっても重要なダムなので、是非、お願いしたい。

昭和 28 年の洪水では、大洪水となり、巨椋池干拓地など、多くの危険地帯を抱えている。2 万人の住民がダムを強く要望し、久御山町、八幡市とともに、京都府知事に意見を申し上げた時、しっかりと必要性は訴えたが、四府県知事合意は残念。